

S 4—3

潰瘍性大腸炎の新しい治療法として白血球除去療法を位置付ける

兵庫医科大学 第4内科

○澤田康史、里見匡迪、下山 孝

【目的】 Multicenter trial randomized controlled studyで潰瘍性大腸炎（UC）治療における白血球除去療法（LCAP）の有効性・安全性をプレドニン療法（PSL）と比較検討。

【対象及び方法】 軽症と直腸炎型症例は除外し、患者より治療の同意を得た後、両群に差がないよう割り付けた。登録した計 95 例中、不採用の5例を除いた90例で安全性を評価し、登録時脱落症例と大腸内視鏡所見を施行できなかった18例を除いた計72例（PSL群34例、LCAP群38例）で有効性の評価を行った。LCAPは、白血球除去器を用い、1回に約3,000 mlの血液を処理し、約 1.6×10^{10} 個の白血球を除去した。

【主な結果】 副作用出現率は、LCAP群において軽度・中等度計10例（23.3%）であり、PSL群では軽度・中等度26例、高度1例の計27例（57.4%）であった。有効率は、PSL群で著明改善6例、改善9例の44.1%（不変14例、悪化5例）で、LCAP群では著明改善9例、改善19例の73.7%（不変9例、悪化1例）であった。

【結論】 このように multicenter trial randomized controlled studyにおいてもUCに対するLCAP治療は、従来のPSLの多量療法より副作用が少なくかつ効果的な治療法であった。

S 4—4

慢性関節リウマチに対するアフェレシス療法の効果とその評価

順天堂大学膠原病内科

○山路 健、建部一夫、木村 桂、山崎泰明、金 英俊、藤田直哉、小笠原倫大、梁 広石、森谷泰和、渡邊 仁、木田一成、松田幸博、金井美紀、津田裕士、高崎芳成、橋本博史

慢性関節リウマチ（rheumatoid arthritis:RA）に対するアフェレシス療法として二重膜濾過血漿交換療法（double filtration plasmapheresis:DFPP）、リンパ球除去療法

（lymphocytapheresis:LCP）、顆粒球除去療法（granulocytapheresis）など種々の治療法が試みられ、その有効性が報告されている。我々の施設ではRA 24例に対してDFPP（15例）もしくは、LCP（9例）を施行し治療による臨床症状の改善度を評価した。臨床症状の評価項目は握力、腫脹および疼痛関節点数、朝のこわばり持続時間、歩行時間、リッチーインデックス、上肢および下肢のADLなどであった。「やや改善」以上はDFPP群で60.0%、LCP群で55.6%と両群に有意差はなく両治療ともに有効性が示唆された。長期（一年以上）継続施行例ではステロイド投与量が有意に減量可能であった。

また、RAにおいて炎症のメディエーターとして働く炎症性サイトカインについてアフェレシス療法前後の変化を検討した。検討したサイトカインはinterleukin-1 beta (IL-1 beta)、interleukin-6 (IL-6)、tumor necrosis factor-alpha (TNF-alpha) についてで enzyme-linked immunosorbent assay (ELISA) を用いて測定した。これらの炎症性サイトカインはRAの関節滑膜において炎症惹起作用を示すのみでなく、種々の接着分子発現を起こさせ炎症細胞浸潤を促す作用を有する。RAに対するアフェレシス療法の効果のメカニズムを解明する上で重要なファクターとして今回検討をくわえた。